家　　庭

1　学習評価の改善・充実

(1) 学習評価の改善の基本的な考え方

学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものであり、生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、学習評価の在り方が極めて重要である。

また、新学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っており、学習評価を真に意味のあるものとし、指導と評価の一体化を実現することが必要である。

学習評価の改善の基本的な方向性は、次のとおりである。

①　生徒の学習改善につながるものにしていくこと ②　教師の指導改善につながるものにしていくこと ③　これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

(2) 評価の観点及びその趣旨

【共通教科「家庭」における評価の観点及びその趣旨】

観　点	趣　旨
知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

(3) 評価規準の設定

各学校の実態に応じて目標に準拠した評価規準を作成するに当たっては、家庭科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえ、科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」を作成する必要がある。各学校においては、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて、各学校の実態を考慮し、単元や題材の評価規準等、学習評価

を行う際の評価規準を作成することが必要である。

なお、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、特に、生徒の学習への継続的な取組を通して現れる性質を有すること並びに「２　内容」に記載がないことから、各科目の「１　目標」を参考にしながら、必要に応じて、評価の観点とその趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する必要がある。

【共通教科「家庭」における内容のまとまり】

家庭基礎	家庭総合
A　人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計 (2) 青年期の自立と家族・家庭 (3) 子供の生活と保育 (4) 高齢期の生活と福祉 (5) 共生生活と福祉	A　人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計 (2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会 (3) 子供との関わりと保育・福祉 (4) 高齢期との関わりと福祉 (5) 共生生活と福祉
B　衣食住の生活の自立と設計 (1) 食生活と健康 (2) 衣生活と健康 (3) 住生活と住環境	B　衣食住の生活の科学と文化 (1) 食生活の科学と文化 (2) 衣生活の科学と文化 (3) 住生活の科学と文化
C　持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境	C　持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境
D　ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	D　ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

注）「内容のまとまり」とは、学習指導要領に示す教科等の「第２款　各科目」における各科目の「１　目標」及び「２　内容」の項目等をそのまとまりごとに細分化したり整理したりしたものである。

(4) 観点別学習状況の評価についての実施上の留意点

教科・科目の目標や内容等から「学びに向かう力、人間性等」など、数値的な評価になじまないものについては、観点別学習状況の評価や評定は行わず、学習の状況や成果などを踏まえて､総合所見及び指導上参考となる諸事項に所見等を端的に記述するなど、評価の在り方等について工夫する必要がある。

また、評価の焦点化を図り、効果的・効率的な学習評価を進めるため、「指導に生かす評価」と「記録に用いる評価」の二つの視点から学習評価をとらえることや、観点別学習状況の評価を実施するに当たり、生徒や保護者に対して評価に関する情報をより積極的に提供し、理解を得ることなどに留意することが大切である。

(5) 観点別学習状況の総括の進め方

観点別学習状況の評価に係る記録の総括を行う際、観点別学習状況の評価に係る記録が、観点ごとに複数ある場合は、評価結果のＡ、Ｂ、Ｃの数を基に総括する方法と、評価結果のＡ、Ｂ、Ｃを数値に置き換えて総括する方法などが考えられる。

【評価結果を総括する方法】

数を基に総括する方法	数値に置き換えて総括する方法
例：「Ａ・Ｂ・Ｂ」⇒Ｂ ※　総括の仕方については、あらかじめ各学校において決めておく	総括の結果をＢとする範囲を ［1.5≦平均値≦2.5］と設定した場合 「Ａ・Ｂ・Ｂ」＝［（３＋２＋２）÷３］ ＝約2.3⇒Ｂ

【単元における評価の総括例】

1　小単元における観点の評価を
　Ａ＝３点　Ｂ＝２点　Ｃ＝１点に置き換える。
　また、確認テストや定期考査の達成率を
　80％以上：Ａ＝３点、50％以上80％未満：Ｂ＝２点、50％未満：Ｃ＝１点に置き換える。
2　算出方法を次のとおりとする。
　（学習過程における評価＋確認テストの評価＋定期考査の評価×２）÷
　（学習過程における評価の回数＋確認テストの回数＋定期考査の回数×２）
　「知識・技能」の場合
　｛（２＋３＋２＋３＋２×２）÷（３＋１＋１×２）｝＝2.3
3　総括の結果をＢとする範囲を1.5≦平均値≦2.5とする。
　「知識・技能」の場合
　1.5≦2.3≦2.5となるので「知識・技能」総括の結果はＢとなる。

定期考査については、今回は２倍の重みを付けて評価

【家庭基礎「Ａ　人の一生と家族・家庭及び福祉」における評価の総括例】

数値に置き換える

単位時間	学習内容	知			思			態		
１・２	乳幼児期の特徴・現象	○	B	2	○	A	3			
３・４	社会的生活習慣等の形成				○	B	2	○	A	3
５・６・７	親の役割と保育（体験学習）	○	A	3	○	A	3			
８・９・10	子どもを取り巻く社会環境	○	B	2				○	A	3
確認テスト（正答数/問題数の割合よる評価）		89％＝Ａ：３点			89％＝Ａ：３点			100％＝Ａ：３点		
定期考査（正答数/問題数の割合よる評価） ※今回は点数に２倍の重みを付けて評価する。		71％＝Ｂ：２点 （Ｂ：４点）			86％＝Ａ：３点 （Ａ：６点）			83％＝Ａ：３点 （Ａ：６点）		
単元の評価		2.3　B			2.8　A			3.0　A		

【割合による評価の例】
定期考査で「知識・技能」を評価する場合
「知識・技能」を問う問題全７問のうち、
５問が正解であった場合
（正答率）　５問÷７問×100＝71.2≒71％

※　総括における重み付けには、定期考査を考慮した重み付けのほかに、単元の目標に照らし合わせて重視したい観点に重み付けをする場合や、単元の後半を重視した重み付け、授業時数を考慮した重み付けなどが考えられる。

評定は各教科・科目の学習の状況を総括的に評価するものであり、観点別学習状況において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際、評定の適切な決定方法等については、各学校において定めることとなっている。

【学年末における評価の総括の例】

領域	領域名	知		思		態	
A	人の一生と家族・家庭及び福祉	A	3	B	2	A	3
B	衣食住の生活の自立と設計	B	2	B	2	B	2
C	持続可能な消費生活・環境	A	3	A	3	A	3
D	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	A	3	B	2	A	3

評価	知識・理解	A	思考･判断･表現	B	主体的に学習に取り組む態度	A
３つの観点の評価の合計：８				評定：４		

【評価の合計から評定を算出する場合の例】
Ａ＝３点、Ｂ＝２点、Ｃ＝１点とし、
３つの観点の合計から判断する
（合計）　９点　→（評定）　５
　　８点・７点→　　４
　　６点・５点→　　３
　　４点　→　　２
　　３点　→　　１

【総合評価の組合せから評定を算出する方法の例】
（組合せ）：（評定）
ＡＡＡ：５
ＡＡＢ、ＡＢＢ：４
ＢＢＢ、ＢＢＣ：３
ＢＣＣ：２
ＣＣＣ：１

単元の導入の段階では観点別の学習状況にばらつきが生じるとしても、単元末や学期末、学年末の結果として算出される３段階の観点別学習状況の評価については、観点ごとに大きな差を生じさせないために、指導と評価の取組を重ねながら授業を展開することが重要である。

２　新学習指導要領における指導と評価の計画例

(1) 単元の指導計画例（「家庭基礎」）

家庭基礎における「Ａ　人の一生と家族・家庭及び福祉（３）子供の生活と保育」の単元の指導計画を示す。

ア　単元の目標

(ｱ) 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付ける。

(ｲ) 子供を産み育てることの意義を考えるとともに、子供の健やかな発達のために親や家族及び地域社会の果たす役割の重要性について考察し表現する。

(ｳ) よりよい社会の構築に向けて、子供を生み育てるために、親や家族及び地域社会の他、社会の一員として主体的に子供と関わり、子育て支援に携わろうとする実践的な態度を養う。

イ　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
乳幼児期の心身の発達と生活について総合的に捉え、基礎的知識を理解しているとともに、乳幼児と適切に関わるために必要な技能を身に付けている。	子供を生み育てることの意義について考えるとともに、健康や安全に配慮しながら成長を促すために、親や家族、地域社会の果たす役割の重要性について考察し表現している。	よりよい社会の構築に向けて、子供を生み育てるために、親や家族及び地域社会の他、社会の一員として主体的に子供と関わり、子育て支援に携わろうとしている。

ウ　指導と評価の計画（９時間）

本単元の内容と授業時間数は次のとおりである。

次程	内容	授業時間数	
1	子どもの心身の発達と特徴	１時間	９時間
2	子どもの発達と生活	２時間	
3	保健師による体験学習	３時間	
4	現代の保育環境	３時間	

各授業時間の指導のねらい、生徒の学習活動及び重点、評価方法等は次のとおりである。

次程		評価	評価方法
第 1 次	【指導のねらい】 新生児期や発達段階の特徴を知り、実際に乳幼児に適切に関わることのできる資質を育むことを目指す。		

（1時間）	【学習活動】 ＤＶＤの視聴などにより、新生児の特徴や発達について理解した上で、月齢別に配慮すべき事項を考えるとともに、乳幼児と関わった自らの経験や自分の親へのインタビューから、保育の意義について考える。 また、ＩＣＴを活用したポートフォリオにより、学習内容とその過程（生徒の評価）を記録し、生徒の学習の改善を図る。	知 思	知：ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ 思：ﾜｰｸｼｰﾄ
第2次（2時間）	【指導のねらい】 愛着の形成には、子供と関わる大人すべてが関与することを理解させる。また、生活習慣形成と親との関わりについて、事例を挙げ、グループワークを通して適切な対応方法について考えさせる。 【学習活動】 言葉の発達や愛着形成の過程を理解し、これらに関わる文献を活用して子供を取り巻く環境に必要な要素について具体的に考えるとともに、基本的生活習慣、社会的生活習慣の形成に必要な要素について理解する。	思	思：ﾜｰｸｼｰﾄ
第3次（3時間）	【指導のねらい】 疑似体験を通して、乳幼児との適切な関わり方を身に付けるように配慮する。また、体験の様子を写真で記録し、生徒が振り返りの材料として活用できるようにする。 【学習活動】 「保健師による体験学習」 保健師による講話から、地域の子育ての現状と課題を理解し、新生児人形による抱っこ体験及び妊婦体験、調乳体験を通して、新生児の接し方を学ぶとともに、子育てに関わる親の役割や子育て支援の重要性を考える。	知 思	知：ﾜｰｸｼｰﾄ 技：ﾜｰｸｼｰﾄ 思：ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ
第4次（3時間）	【指導のねらい】 親や家族だけでなく、社会全体が協力して子育てを支援することの重要性を理解させる。 【学習活動】 「いのちの教室」 保健師による講話の事後学習において、少子化に関する視聴覚教材を活用し、現代の子育て環境とその課題について生徒の理解を促すとともに、日本の保育事情について考える。保健師による講話から、地域の少子化の現状や産み育てること、いのちの大切さについて学ぶ。 また、ＩＣＴを活用し、自分で作成した学習内容及び自己評価の記録（ポートフォリオ）を用いて単元のまとめを行う。	思 態	思：自己評価シート 態：ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ

各内容のまとまりで自己評価をポートフォリオで実施し、学習前後において理解状況を記録することで、理解の深化を可視化する。

乳幼児と関わる際の配慮事項等を学習後に記述する。

課題を提示し、子供を取り巻く環境に必要な要素について考え、記述させる。

グループで各体験の写真や動画等の記録を残し、事後学習で振り返りを行う際に活用する。

講話の前後における認識の変容を振り返ることができるよう、ワークシートに記入し、フィードバックを行う。

学習したことを確認し、親としての在り方や、乳幼児との関わりを自分事として捉えられたか等について自己評価させる。

【学習指導案】

「保健師による体験学習」

1　目標

(1) 保健師による講話を聞き、地域の子育ての現状と課題を理解する。

(2) 新生児人形を使用した抱っこ体験を通して、新生児の実際の重さなどを体験し、接し方を身に付ける。

(3) 妊婦体験、調乳体験を通して、子育てに関わる親の役割や子育て支援の重要性について考え、表現する。

2　展開（第３次（３時間））

過程 (時間数)	学習内容	生徒の学習活動	評　　価	指導上の留意点
導入	学習内容の確認 講師紹介	・学習内容及びねらいの確認		・資料、ワークシートを配付し、理解を促す。
展開（1）	保健師による講話 ①地域の現状 ②子どもの発達 ③親の役割 ※体験学習の説明	・講話の受講 ・ワークシートに要点等の記載 ・体験学習全般への理解	【知識･技能】 ・地域の子育ての現状と課題を理解している。	・要点の把握に向けて、ワークシートの記載を事前連絡する。
展開（2）	＜体験学習＞ A　抱っこ体験 B　妊婦体験 C　調乳体験	・小グループによるＡ～Ｃの体験 A　抱っこ体験 ・重さや接し方の体験（新生児人形使用） B　妊婦体験 ・寝返り、階段昇降等の日常動作の体験(妊婦体験セット装着) C　調乳体験 ・調乳及び月齢別の離乳食の試食	【知識･技能】 ・新生児の接し方の要点を理解し、適切な接し方を身に付けている。 	新生児についての学習内容を踏まえ、適切な接し方ができるよう指導する。 ・生徒の体力等を考慮し、負荷や方法を工夫する。 ・試食については、感染症等への安全対策を図った上で実施する。
まとめ	学習内容の振り返りと次時の確認	・自己評価 ・ワークシートに本時の学習内容をまとめて記入	【思考･判断･表現】 ・子育てに関わる親の役割や子育て支援の重要性について、表現している。	・ポートフォリオ

エ　評価問題等

1　体験学習を振り返り、自己評価をしてあてはまる評価に〇を付けよう。

（A：よくできた　B：できた　C：あまりできなかった　D：できなかった）

評価項目	A	B	C	D
①　保健師の方の講話を聞いて、地域の子育ての現状や課題について理解することができたか				
②　新生児を抱っこする際の配慮事項を理解し、実践することができたか				

2　体験学習を通して、次の内容についてあなたの考えをレポートにまとめよう。

【内容】

①地域の子育ての現状と課題について、わかったことや気付いたこと。

②親の役割や子育て支援の重要性についてわかったこと。

①	
②	

【２における評価規準】

	A	B	C
①	地域の子育ての現状や、課題等について、解決の方法が具体的に自分の視点や考えを交えて記載されている。	地域の子育ての現状や、課題等について、講話の内容が記載されている。	地域の子育ての現状と内容が記載されている。
②	親の役割や子育て支援の重要性について、男女が協力して家庭を築くという視点から、具体的に記載されている。	親の役割や子育て支援の重要性について、自分の考えを交えて記載されている。	親の役割や子育て支援について講話の内容等が記載されている。